
クサリイチゾク（四話目）

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クサリイチゾク（四話目）

【Zコード】

Z5502R

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

これはココロ様のリレー小説です

(前書き)

「」口様は連載にされてますが、短編で投稿しました。

クサリイチゾクの『クサリ』とは、鎖の意味もある。『鎖』は束縛を意味し、一族の結束を意味する。

また『クサリ』は不老不死の意味あいを持つ、クサリイチゾクの『クサリ』は『腐り』の意味も含まれる。成人を迎えた時点で不老不死の能力が開花し、身体の『腐り』が停止する。腐る事のない身体は、新陳代謝機能が停止し、成人のまま生き続ける。

特徴は、身体の何処かに現れる鎖のような入れ墨に似た痣、一生消える事なく、身体に残り続ける。

しかし、一族を抜けようとする者も後を絶たない。一族を抜ける方法は至って簡単で、身体にある入れ墨のような痣を消すだけだ。そうする事で一族から隔離され、一人の人間として生を全うする。不老不死の能力を失い、一族の結束も失う。

しかし、何百年、何千年を生きる不老不死に比べれば、人間らしい一生を全うできるという考え方なのである。

ここに一人の青年がいる。名を草離くわい八雲やくもという。年齢は、通常ね人間であれば523歳。しかし容姿は20歳のままであった。彼もまた、一族から抜け出す計画を立てていた。

『かれこれ5世紀以上を生きてきた。しかし、知り合いになつた者は達は歳老いて、自分が取り残される。こんなのもう嫌だ!』

彼は決意を固め、一族の痣を消しに行つた。

一族の入れ墨のような痣は、一族の者にしか消せない。

長老に理由を話し、痣を消す決意を固めた。

しかし、一族に代々伝わる痣を消す事は容易な事では無かつた。不老不死だけでなく、一族個々に継承される特殊能力（一般的には超能力というらしいが）も取り除く為、痣の消去だけでなく、精神面への処置も施される。

身体的苦痛と精神的苦痛を半日以上耐えづづけ、疲労困憊で家に

帰つた。

「ただいま……」

家に入ろうとした瞬間、家に入る事を家族から拒まれた。

クサリイチゾクは、一族のみの結束を律儀に守る一族。

その為、一族から抜けたハ雲は一族として認められなくなつてい

たのだった。

「これからどうすればいいんだ……」

ふと口から出た愚痴を溜息まじりに言つとハ雲は、一族の集落を

立ち去つた。

(後書き)

続きが書きたい方は「コロ様まで、ご連絡ください。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5502r/>

クサリイチゾク（四話目）

2011年10月8日01時07分発行